

平成31年度 学校評価（自己評価）報告書

評 価 項 目		自 己 評 価
I 教 育 課 程	1. 教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生に対しては新入生説明会、在校生に対しては全校集会・行事等で、保護者に対しては保護者会等で教育目標を周知させた。 ・スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の目標について、在校生に説明するとともに、学校説明会参加者にも周知した。
	2. 教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> ・現行教育課程の意義に則り、適切な運用・実施に努力し、SSH指定校として教育内容の充実に努めた。 ・新学習指導要領への移行を見据えたカリキュラム編成に向けて、引き続き検討していく。
	3. 年間授業日数・時数	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎改修に伴う授業不可期間及び学校行事全般の意義を考えながら、必要な授業日数・時数の確保に努めた。
	4. 教育活動とその成果	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科とも適切な教育活動に努めた。また、各学年において探究的な活動を充実させ、成果を上げることができた。
	5. 行事	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・教員間で連携を図りつつ、運営組織に対し適切に指導すると同時に、生徒の自治意識を高めるよう支援した。円滑な行事運営ができるよう、次年度に向けて引き継ぎを行う。
	6. 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学年間の連携を促すとともに、組織的な対応を強化した。 ・従来業務を見直し、改善・精選を図った。 ・eポートフォリオは、入試改革の動向を見ながら、引き続き慎重に対応する必要がある。
	7. 研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・SSH指定校（1年目）として研究開発に取り組み、校内の体制整備に努めた。 ・校内研修会を7月、8月、11月に実施した。新課程の編成に向けた情報共有を行うとともに、本年度から始まったSSHや「新教養基礎」等の取り組みの概要及び成果と課題を共有した。 ・大学と連携した授業研究等を例年通り進めた。 ・教員研究費を図書費・教材費・出張旅費などに活用した。
	8. 帰国・国際教育	<ul style="list-style-type: none"> ・SGHの活動の一環として、持続可能な社会の探究Iの授業と連携させた2件の研修を実施した。 ①生徒4名、教員1名が8/17～8/24にイオン1%クラブ主催のアジア・ユースリーダーズ in ベトナムに参加し、アジア各国の高校生と「食と健康」をテーマに研修・交流を行った。 ②生徒29名、教員4名が10/16～10/19に台湾（台北）を訪問し、台北市立第一女子高級中学との交流を中心とした研修を行った。 ・ASEF Class Net プログラムで51カ国84名の教育関係者が11/16に来校し、授業参観および教員との交流会を行った。 ・「お茶大×カルティエ シンポジウム」が6/12に開催され、1・2年生および3年生希望者が参加し、室伏学長とプラット＝ヴァン＝ティール氏（カルティエ ジャパン社長）、CWI受賞者とファイナリストらの交流の機会を得た。 ・お茶の水女子大学国際教育センターと連携し、海外研修の事前研修として、大学に在籍する留学生による英語のレッスンを実施し、高校生と留学生の交流する機会を持つことができた。 ・4月にIFAを通じてスウェーデンからの短期留学生の受け入れを行った。
	9. 自治（会）活動の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・自主自律の精神を育成するという観点から、自治組織に対する適切な指導・支援を行った。 ・自治会会計について、適切な予算編成、執行、決算、監査がなされるよう、指導・支援を行った。
	その他	
A 普 通 教 育 を 行 う 学 校 園 と し て	1. 経営・組織	<ul style="list-style-type: none"> ・国立大学附属学校に関する有識者会議の報告を受けて作成された「附属学校教員の勤務時間の適正な管理について」に基づき、会議時間の短縮、勤務時間の適正化に努めた。 ・学校経営計画を立案し、重点目標を決定し、学校評価を円滑に行った。 ・企画運営委員会を25回開催し、運営体制のあり方や業務内容、組織の見直しを行い、円滑な学校運営に努めた。 ・PTA、教育後援会、同窓会等と連携して教育環境を整えることに努力した。
	2. 出納・経理	<ul style="list-style-type: none"> ・予算委員会・副校長・総務部を中心に、校費・寄付金（運営基金）・諸費用などの予算執行を適切に進めた。 ・校舎改修・教育環境改善事業募金を行い、適正に執行した。 ・SSH予算の適切かつ効果的な運用に努めた。
	3. 施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎改修事業を円滑に進めることができた。施設・設備については未整備などもあるが、徐々に整備を進める。 ・校舎改修に合わせて生物室・物理室・被服室の実験・実習設備を更新するとともに、調理室・美術室・保健室等の什器類を更新し、教育環境の整備を行った。 ・教室の配置変更・用途変更により新たに多目的室・演習室を設けるなど、教育環境の改善に努めた。
	4. 健康	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健安全計画に基づき、生徒の健康の保持・増進ならびに安全教育に努めた。 ・生活会議においては教員全体の情報共有と共通理解をはかり、カウンセラーや担任団との連携を取りつつ、個々の生徒に対する健康相談および支援を行った。 ・人間関係構築に関する初期段階のかかわりについては、行事検討委員会と連携し、スクールカウンセラーに協力を得て、新入生オリエンテーションにおいて構成的グループエンカウンターを実施した。
	5. 安全	<ul style="list-style-type: none"> ・改修に伴う安全管理体制の見直しを行った。 ・防災備蓄品のさらなる積み増しを行った。 ・全学で実施した法定の避難訓練への参加とその際の講話、並びに「お茶の水女子大学防災教育テキスト」を活用してHRでの防災指導を行った。
	6. 情報	<ul style="list-style-type: none"> ・成績処理用ネットワークについて、情報基盤センターに随時報告・連絡・相談を行い、整備を進めた。 ・校舎改修に伴い、情報資産を整理した。
	7. 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・29件の活動報告を更新するなど、ホームページを効果的に運用した。 ・6月と9月に学校説明会を開催した。第2回は輝鏡祭と同時開催として集客を図った。（参加者数－第1回：341組 615名、第2回：333組 668名） ・11月に保護者授業参観を実施した。（参観者数：11月158名） ・学校評議員会および学校関係者評価委員会6月に開催し、学校運営および学校評価について有益な助言を得た。
	8. 入学検定	<ul style="list-style-type: none"> ・入学検定を公正・適切に実施した。 ・入試問題の作成においては、昨年度に引き続き、日程を含めてチェック体制の強化、維持に努めた。
	9. 保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と学校との連絡を密に行い、改修への寄付のためのグッズ販売を実現し、寄付につなげた。 ・文化祭での物品、オリジナルグッズの販売でPTAと後援会の連携を手助けした。 ・校舎改修・教育環境改善募金の円滑な寄附推進に努めた。
	10. 学年活動	<p>1 学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生としての自覚を持ち、基本的な生活習慣・学習習慣を確立できるよう指導した。 ・学校行事や委員会・部活動において、自主自律の精神、他者と協働する姿勢について継続的に指導していく必要がある。 ・学習のガイダンスを定期的に行い、学習意欲の向上と基礎学力の定着を図った。 ・筑波大学附属高等学校との合同の進路講演会やお茶大キャリアガイダンス等を通じて、自分の将来像を考える機会を提供し、進路選択の可能性を広げられるよう支援した。 <p>2 学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力測定の機会を増やし、基礎学力の充実を図った。また、探究活動では、校外コンテスト等で高い評価を得るなどの成果を上げた。 ・卒業生のお話を聞く会や特別授業を実施し、卒業生や講演者から進路・キャリアに関するロールモデルが示され、自己実現可能な進路選択を支援できた。 ・各行事や日々の学級活動では、コミュニケーション力と思いやりの心を持ち、協働して目標を達成できるように指導・支援した。 ・自律した生活習慣と安定した学校生活を送れるように支援した。 <p>3 学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自己実現に向けて主体的に進路選択ができるよう、様々な進路資料を用いるなどして内容を工夫・充実させ、指導・支援を行った。 ・生徒が既習の知識・技能を活用しながら主体的かつ計画的に学習に取り組み、進路を選択することができるよう、保護者も交えた三者面談や、個人面談等を通して指導・支援した。 ・学校生活のさまざまな場面において、最高学年にふさわしい態度・振る舞いができるよう指導を重ねた。しかし、生活習慣等において指導が徹底しきれない部分もあった。
その他		

B 大 学 と の 連 携 の 附 属 校 園 と し て	I 大 学	1. 連携研究	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育研究部の協力の下、附属高校生向けキャリアガイダンスが全学部で実施された。 ・大学関係の研究調査依頼が2件あり、調査に協力した。 ・学校教育研究部を中核とする5附属校園間の連携研究に18名が参加し、研究に寄与した。 ・「新教養基礎」の基本構想を基に、2019年5月より開講し、本年度の課題を踏まえて次年度に向けた修正を行った。 ・大学の公開授業をのべ56名（履修:15, 聴講:41）の生徒が受講した。 ・「選択基礎」を11名（文教育4名、理学部2名、生活科学部5名）が受講し、特別入試で11名がお茶の水女子大学に進学することになった。 ・お茶の水女子大学グローバル女性リーダー居校正研究機構グローバルリーダーシップ研究所主催によるオックスフォード大学マートンカレッジ学長 グローバルリーダーシップ研究所講演会 A Life of Pain and Pleasure が1月に開かれ、高校生35名が参加した。 ・東京工業大学サマーチャレンジに3年生7名が参加した。特別選抜には3名が合格し、さきがけ教育を受講した。また、12月にはウィンターレクチャーを実施し、1, 2年生全員および3年生希望者が受講した。 ・筑波大学附属高等学校とのキャリア教育連携の取り組みとして、1年生の進路講演会（7月）およびキャリアガイダンスに筑波大学附属高生も参加できるようにした。また、キャリアカフェを年間3回実施し、両校生徒の希望者が参加した。
		2. 授業交流	<ul style="list-style-type: none"> ・大学や附属学校園との授業交流や授業公開を行うよう努力した。 ・「教養基礎国語」、「生活の科学」および「総合的な学習の時間」で、大学の教員による授業を実施した。
		3. 教育実習	<ul style="list-style-type: none"> ・前期14名、後期22名の教育実習生を受け入れ、教科指導の専門性の向上、教員としての資質の育成に努めた。 ・教育実習専門部会との連携により、円滑な実習の実施に努めた。 ・教職実践演習の一環として11月に学生35名が授業を参観した。
		4. 専門委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・各専門委員会はその目的に沿って適切に活動した。 ・教育推進専門委員会では附属間の連携研究のあり方について検討を進めた。
		5. 大学の講義担当	<ul style="list-style-type: none"> ・5教科7名の教員が教科教育法の授業を担当し、高校での授業見学も含めて、その効果が上がるように実施した。 ・教科教育法以外の授業（3科目）を3名の教員が担当した。
		6. インターンシップ	<ul style="list-style-type: none"> ・学部インターンシップの学生については、博士前期課程から国語科で1名、学部から家庭科で1名、社会科（地理）で2名を受け入れ、研究に協力した。
		その他	
	II 社 会 貢 献	1. 授業参観 研修生の受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・外部からの授業参観・学校訪問等を12件受け入れた。
		2. 公開教育研究会開催	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度はSSH指定初年度の研究開発や校舎改修に注力したため、公開教育研究会を実施できなかった。
		3. 初任者研修・現職研修	(2019年度該当なし)
		4. 途上国支援	(2019年度該当なし)
		5. 出版活動	<ul style="list-style-type: none"> ・研究紀要を適切な内容で適切な時期に発行し、お茶の水女子大学教育・研究成果コレクションTeaPotへ掲載した。 ・SSH指定校として、報告書、生徒論文集および英字新聞を作成した。
		6. 各種研究会への協力	<ul style="list-style-type: none"> ・講師等派遣依頼が18件あった。 ・ASEF Class Net プログラムで51カ国84名の教育視察を受け入れた。 ・学内外の研究会等に積極的に参加した。
その他			

2019年度 学校評価(自己評価)重点目標まとめ

1. 教育課程の編成(A-I-2)

- ・教育目標に即し、新学習指導要領に向けて適切な教育課程の編成を検討する。
- ・SSH指定校として、教育課程を適切に実施する。
 - ⇒ SSH指定校として新しい教育課程の運用・実施に努力するとともに、新学習指導要領への移行を見据えたカリキュラム編成に向けた検討を継続した。

2. 研究・研修(A-I-7)

- ・SSH指定校(1年目)として研究開発に取り組む。
 - ⇒ SSH指定初年度として研究開発に取り組み、今年度から開講した学校設定教科・科目を実践するとともに、来年度開講予定科目の施行にも取り組み、2年目に向けて準備を進めた。
- ・校内研修会を実施し、教育実践に活かす。
 - ⇒ 校内研修会を3回実施し、新課程の編成に向けた検討を行うとともに、SSHや新教養基礎の取り組みについても情報を共有し、成果と課題を確認した。

3. 施設・設備(A-II-3)

- ・校舎改修を円滑に進め、教育環境の整備・改善に努める。
 - ⇒ 校舎改修に合わせて物理室・生物室・被覆室の実験・実習設備を更新するとともに、美術室・調理室・図書室・保健室等の什器類も更新し、教育環境の整備を進めた。また、教室の配置変更・用途変更により、新たに多目的室・演習室を設けるなど、教育環境の改善にも努めた。

4. 安全(A-II-5)

- ・減災の観点から、大学と連携して安全管理体制を見直し、その充実に努める。
 - ⇒ 校舎改修に合わせて校舎の安全性を高めるとともに、附属小学校・中学校とも連携して「安全管理マニュアル」を改定した。

5. 連携研究(B-I-1)

- ・今年度から「総合的な探究の時間」として実施する「新教養基礎」の運営体制を整備する。
 - ⇒ 「新教養基礎」の基本構想を基に、2019年5月より開講し、3学部から計15名の教員による講義が行われた。また、今年度の課題を踏まえて次年度に向けての修正を行った。